

新たに加算式 総合評価試行

2次曲線式でダンピング対策

加算方式の評価額の算定式

$$\text{評価額} = \text{価格評価点} + \text{技術評価点} (\text{加算点}) \\ = 100 \times \left[1 - \frac{(\text{入札金額} - \text{入札最低価格})^2}{\text{予定価格} \times (\text{予定価格} - \text{入札最低価格})} \right] \times \text{技術評価点} (\text{満点}) + \text{技術評価点} (\text{減点点})$$

実績型など3タイプ 技術評価点を上積み

新潟県土木部は、2008年度から総合評価方式の評価額算定方法を改定するとともに、従来の算定方式に加え、新たに加算式の総合評価方式を導入する。単純に価格評価点と技術評価点を合計する「単純な加算方式」ではなく、評価額の算定方法に「2次曲線式」「計算乗数式」を採用する。入札率が下がれば下がるほど、価格評価点の効果が弱くなる逆目的計算式で、「これだけ安い」という（過度な低価格競争）の発注者拒絶の方針だ。

加算方式の算定方法は「1」から「3」まである。「1」は「2次曲線式」で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「2」は「計算乗数式」で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「3」は「単純な加算方式」で、価格評価点と技術評価点を単純に合計する。

「1」から「3」に、発注者により適用する。評価額は、入札金額と技術評価点の合計で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「2」は「計算乗数式」で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「3」は「単純な加算方式」で、価格評価点と技術評価点を単純に合計する。

「1」から「3」に、発注者により適用する。評価額は、入札金額と技術評価点の合計で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「2」は「計算乗数式」で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「3」は「単純な加算方式」で、価格評価点と技術評価点を単純に合計する。

「1」から「3」に、発注者により適用する。評価額は、入札金額と技術評価点の合計で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「2」は「計算乗数式」で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「3」は「単純な加算方式」で、価格評価点と技術評価点を単純に合計する。

「1」から「3」に、発注者により適用する。評価額は、入札金額と技術評価点の合計で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「2」は「計算乗数式」で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「3」は「単純な加算方式」で、価格評価点と技術評価点を単純に合計する。

「1」から「3」に、発注者により適用する。評価額は、入札金額と技術評価点の合計で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「2」は「計算乗数式」で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「3」は「単純な加算方式」で、価格評価点と技術評価点を単純に合計する。

「1」から「3」に、発注者により適用する。評価額は、入札金額と技術評価点の合計で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「2」は「計算乗数式」で、入札金額が予定価格に近づくほど、技術評価点の効果が強くなる。入札金額が予定価格から遠ざかるほど、技術評価点の効果が弱くなる。「3」は「単純な加算方式」で、価格評価点と技術評価点を単純に合計する。